

文芸特集



たくさん作品の中から選ばれた秀作を紹介します。限られた字数の中に織り込まれた、さまざまな思いや季節の情緒を味わってください。

一席

乱れなく筆圧つよき父の文字遣せし手帳は生き方映す

戸塚2 春山ふみ子

評 文字は人を表す。「乱れなく筆圧つよき」でお父様は意思が強く、正義感も強かった人ではないかと想像できる。文字ばかりではなく手帳にも、その人生が認められていたのであろう。父親への想いが伝わってくる歌である。

冬の朝シャボン玉追い走る子等息を弾ませもみじの手延び

仲町 三好 陽子

最後まで使い終えるかともよいつ十年日誌買い求め居り

鳩ヶ谷本町4 町田 君子

全力走これを逃せば二時間後・後ろ姿で笑い去るバス

飯塚2 入江 令子

茶摘みして浴衣一反買いにゆく農家乙女の小さき楽しみ

領家3 中川 弘子

雪の夜急な寒さに寝付かれず被災地思うきぞ辛かろと

芝下2 中山千枝子

長生きも良し悪しなどと杖をつき友と笑つて一歩踏み出す

上青木3 岩崎モト子

手をあわす母の写真はモノクロなれど記憶の中は鮮やかな色

末広3 後藤 和子

キューポラが失せて久しく川口は我が物顔でビル立ち並ぶ

上青木西4 星野 良一

野茨のバラボラアンテナ咲き競う私の何を聴いてみたいの

北園町 川崎 純男

俳句

一席

一滴の泪のごとく花萼

上青木1 清水たまき

評 俳句という短い詩は、その短さを補うために、さまざまな技術を駆使して表現しなければならぬ。揚句は、比喩を用いて花の美しさを愛でている。さらに「涙」を使わず、「泪」を選択しているのも視覚的に有効である。

春の陽も丸め洗濯物たたむ

安行吉岡 會澤 光子

嫁ぐ日や母から貰ふ桜草

西青木4 青柳 裕美

野に遊ぶ育児休暇のパパと子と

鳩ヶ谷本町2 市川 和夫

地震の国争いの国月冴ゆる

飯塚2 入江 令子

能登想い我を忘れて雪を掻く

南町2 浦部千恵子

雛飾り母在りし日を目交に

芝富士1 小野 隆子

裸婦像の憂いの肩に小鳥来る

八幡木2 向後 弥生

六地藏見守る池に蝌蚪の紐

東川口6 小山 哲夫

花筏ジグソーパズルは未完成

栄町3 高梨 武州

春の水ふつとほぐれしわだかまり

本町4 田邊 元子

ゴジラにも勝てる氣でいる越坊主

領家3 中川 美穂

蒼天を一人占めする半仙戯

新堀 浜田 輝子

鳥帰る地揺れの跡地下に置き

芝富士1 松井 基

転た寝や竹馬の友と春おしむ

弥平1 水野 公子

川柳

伊藤 真理子 選

一席

地球儀に優しく歌う子守唄

上青木4 星野 明美

評 子どもの幸せを願う母のような気持ちで、地球の未来について考える光景が目につかびます。さらに、「地球儀」からは、まだ見ぬ世界を開拓するような探求の心を感じることが出来ます。地球の未来を、優しさで希望の心で包み込むような、美しい光に満ちた作品です。

ふるさとは母の香りがするところ

鳩ヶ谷本町3 加藤 レイ

有難き漆器の軽き自立支え

幸町1 保坂 治代

夫婦とて慈愛を保つ車間距離

上青木西4 星野 良一

句作りで不意に言葉が踊りだし

戸塚境町 稲垣 洋